

事業実績（視察）報告

1. 視察の概要

- (1) 目的 第19回全国市議會議長会研究フォーラムin盛岡
(2) 日時 令和6年10月9日～10日
(3) 場所 トーサイクラシックホール岩手
(4) 参加者 中村 真一



2. 主な内容

第1日目 (10/9)

主催者挨拶 全国市議會議長会会長 坊 恭寿会長（神戸市議長）

開催市挨拶 内館 茂市長



第1部 基調講 普 義偉第99代内閣総理大臣からのビデオメッセージ

第2部 パネルディスカッション「地方議会の課題と主権者教育」

コーディネーター 井柳美紀静岡大学人文社会科学部法学科教授

パネリスト 土山希美枝法政大学法学部教授

〃 越智大貴一般社団法人WONDER EDUCATION代表理事

〃 渡辺嘉久読売新聞東京本社教育ネットワーク事務局

〃 遠藤政幸盛岡市議会議長

時期開催市挨拶 第20回全国市議會議長会研究フォーラム開催地
札幌市 令和7年8月27日(水)・28日(木)

第2日目 (10/10)

第3部 課題討議 「主権者教育の取組報告」

コーディネーター

河村和徳 東北大学大学院情報科学研究科准教授

事例報告者 白鳥敏明 伊那市議会前議長

諸岡 覚 四日市市議会議員

服部香代 山鹿市議会議長

3. 所見・西尾市政への反映に向けた課題

主に主権者教育・地方議会の課題についてパネルディスカッション・課題討議を通じて学びました。本来であれば菅副総裁の基調講演も予定されていましたが、衆議院本会議のためビデオメッセージでの対応となりました。

地方議会の課題として①投票率の低下②無投票当選の増加③議員の性別・年齢構成の偏りが挙げられ、議会に対する関心を高め理解を深める主権者教育の推進が謳われています。

つまり主に若者に政治に関心をもってもらい、自分事として投票にも主体的に参加するような態度を育てることが必要であり、そのために地方議会もできることに取り組まなければならぬとのことでしたが、「そもそも議会は教育機関ではありませんよね」、という意見もありました。

また、パネリストの一般社団法人WONDER EDUCATION(こちら)の越智大貴代表理事は、調査結果から「日本の若者は政治に関心がない訳ではなく、自分が社会を変えられると思っていないから選挙に行かない」と解説。

たしかに議会は教育機関ではないが、かといって放置もできないので、各議員の支援者を通して若者に選挙、政治に対する重要性を市選挙管理委員会とともに周知し、若者の選挙離れをなくすことを考えなければならないと思いました。

「自分の力で社会や政治を変えることができる」感覚を若い人たちに実感してもらうにはどうすればよいのか。

それを目指している実践例として、2日目は実際に議会として主権者教育に取り組んでいる3市(長野県伊那市・三重県四日市市・熊本県山鹿市)の議長(経験者)からの報告とパネルディスカッションでした。

司会者(東北大学大学院情報科学研究科 河村和徳准教授)が「正解、というものは星の数ほどある。正解を求める知識ではなく参加経験が大事のことでした。

主権者教育とは地域への愛着をはぐくむ過程である」と冒頭に述べたのが印象的でした。

山鹿市服部香代議長からは「民主主義は多数決ではなく話し合い、ということを伝えることが大事」との話がありました。

四日市市諸岡覚・元議長からは議会だより子ども号が紹介されました。

伊那市白鳥敏明前議長からは議会との意見交換に参加した高校生が自分で子育て世帯へのアンケートを実施し、議会に請願を提出し、委員会での趣旨説明も行い、全会一致で採択された例が報告されました。

当市においても、何らかの形で議会も関わった、そして形式的ではなく効力感を持ってもらえるような主権者教育を実施しなければ、と思いました。

様々な視点、また先進事例を通しての取組報告に多くを学び、今後の議会活動に活かしたいと思います。

收支報告

項目	支出金額	備考
調査研究費	70,300 円	旅費 60,860 ✓ 円 参加費 9,440 ✓ 円 手土産代 0 円
資料作成費	円	
資料購入費	円	
事務費	円	
計	70,300 円	